

性同一性障害をめぐる基礎知識

—多様な生き方と価値観—

青木 智子¹

水國 照充²

1 はじめに

エクササイズ「クルーザー（最終ページ参照）」は主にエンカウンターグループでの学級内の活用を前提に作成されたもので、その目的は、多様な生き方や他者の持つ価値観を理解することにある。筆者はこの10年ほど、この「クルーザー」を性同一性障害（以下、LGBTと称する）について考える機会を提供すべく、授業内で活用してきた。

学生（児童生徒）らは、個人の思い込みや先入観で「若い女性」「ヨットマン」「彼」「彼女」と登場人物を生物学的な男性・女性と捉えて作業を終えることが多い。ところが、グループディスカッションの段階で、「老人は男性なのか女性なのか?」「もしかしたら医師は、生物学的に男性だけで心は女性なのかもしれない」「ヨットマンは?」等のやり取りが交わされることがある。すると、学生（児童生徒）らは再度「クルーザー」の文章を確認し、身体的性別が心の性別までも示しているのかという疑問から、討論を再スタートする。文部科学省の通達や新聞・ニュース、さらにはTVで見かけるジェンダーフリーのタレントらの存在、パレットなどの報道が、学生らに性的マイノリティ・性同一性障害（以下、総称としてLGBTと示す）を身近に感じさせているのかもしれない。また、同性同士の結婚や、渋谷区・世田谷区に見られるようなLGBTに対する行政の動向が子どもたちの中にも



「クルーザー」登場人物

- 若い女性
- フィアンセ
- ヨットマン
- 老人
- 医者

- ⇒ 1. 登場する人物について好感が持てる人を1とし、5位まで順位づけする
- ⇒ 2. グループとしての順位づけをする

星野秋生 2003「人間関係づくりトレーニング」p.21

<フィアンセ>

- 勝手に病気になった/本人はなにもしていない
- 助けてもらったのに女性を捨てるとはひどい

<ヨットマン>

- 弱みにつけこんでいる(情緒的)
- 夜の航海は危険で、ギブアンドテイクの合理的な要求をしている

<老人>

- 冷たい人、適切なアドバイスができない
- 判断を本人に委ねている

<医者>

- 捨てられた女性のサポートするのは正義
- かわいそうな状況にある女性につけ込んでいる

¹ 平成国際大学教授

² 平成国際大学学生相談室カウンセラー

浸透しつつあるとも考えられる。無論、このような視点がないまま授業が進行する場合もある。

学生らの視点にばらつきがある理由として、LGBT や多様な性について学ぶ機会が乏しいことがあげられるだろう。確かに、現行の学習指導要領には、「性の多様化」に関する記述はない。小学校学習指導要領における「体育」「第3学年及び第4学年」「保健」では、「体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起ったりすること。また、異性への関心が芽生えること」が学習内容として記されている。「内容の取り扱い」として「自分と他の人では発育・発達などに違いがあることに気付き、それらを肯定的に受け止めることが大切であることについて触れるものとする」と書かれているが、ここから性的志向や性別自認の「違い」や「多様性」を学習課題として読み取るのは難しい。中学校の「保健」でも性の多様性に関する記述はなく、教員養成カリキュラムでもそれについての学習は設定されていない。今後、「学習指導要領」において、「性的施行および性別自認の多様性にも配慮すること」などの一文の挿入が望まれるだろう（渡辺 2016）。さらには、LGBT について、授業で取り扱う必要があると半数以上の教員らが考えているにも関わらず、教科書が追いついていないとする指摘もある（日高 2015）。一方、新たな動きとしては、2017年度から使用される予定の高校「家庭基礎」、「家庭総合」の教科書に、人の一生や、成長、家族関係などを扱う章にあるコラムの中で LGBT という言葉が説明されている（Buzz Feed 2016）。

—「多様な性」セクシュアル・マイノリティは性的少数者と訳される。一般的に、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー（略して LGBT）、性分

LGBTとは？

Question) LGBTの日本での人口割合は？

- L= レズビアン: 女性同性愛者
- G= ゲイ: 男性同性愛者
- B= バイセクシュアル: 両性愛者
- T= トランスジェンダー: 生まれたときに法律的/社会的に割り当てられた性別にとらわれない性別のあり方を持つ人
- 性同一性障害の当事者が自らをLGBTと呼ぶことも多い。自分達の生き方にプライドを持ち、名乗るときに使用されている。
- 日本語では、「性的少数者」とも言われるが、むしろネガティブな表現である。

からだところろ ～多様な生き方と価値観

- 「男らしく」「女らしく」にとらわれない
- 結婚 「いつかは結婚して子どもを……」
- 職業選択 「育児は女がする仕事」
- 性別役割 「男は家族を養うもの」「主夫」
- LGBTの子どもがいないことを前提とした言動

LGBT Students Bullied in Japan

<https://www.youtube.com/watch?v=kVUyw8Pob68>

Q: 子どもが自らの性別を 意識するのはいつ頃か？



- 生後18～36か月
→ 髪型の違い、着る物の違い気がつく。
→ 使うトイレの場所や形が違っていることを発見。
→ 男・女の体の構造が違っていることを認識。
性教育: 3～12歳の間に焦点を当てて行なわれる。
- 10歳くらいまでの子どもで反対の性別を望むものは、男の子で約3%、女の子で1%以下

化疾患（インターセックス）などといった人びとを指す。「マイノリティ」といった場合、単に人数が少ないというだけでなく、差別や構造の問題によって、社会的に弱い立場にある人をいう。日本では同性同士の婚姻は法的に認められていないが、LGBTであることを公表した上で、「結婚式」をあげる人たちも現れてきている。2015年には、東京都渋谷区で同性パートナーシップ条例が成立した—

ただし、これらを教員たちはどのようにして子どもたちに教えるべきかという具体的な方法論や指導案などは少ないのが現状である。

電通ダイバーシティ・ラボの調査によると、LGBTは7.6%とされ、その割合は左利き人口とほぼ同数であるとされる。文部科学省が全国の公立小中学校で約5万人を対象にした調査結果（2012）で、発達障害の可能性のあるとされた児童生徒の割合が6.5%であったことと比較すると、その多さが想像できることだろう。

2 文部科学省の対応

「学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査について（文部科学省 平成26年6月13日）」は、平成25年度4～12月に全国の小、中、高、特別支援学校の約3万7000校（児童生徒数計約1300万人）を対象に、学校が把握する事例、対応や課題について実施された調査結果を示すものである。学校側に悩みを相談した606名（戸籍上男・女の両方を含む／男子237人、女子366人、無回答3人）は、中学校110名、高校403名であり、年齢と共に増加傾向にある。約6割の学校がトイレや更衣室、保健室や職員用の利用で対応できるだけの配慮をしているが、授業や部活動における個

文科省通達の背景

1. メディアの影響: 親しみのある「オネエ」タレントの活躍、ドラマ『3年B組金八先生』に性同一性障害の生徒が登場
2. 府中青年の家事件裁判→2002年に「人権教育・啓発に関する基本計画」に同性愛者への差別といった性的施行の係りが明記
3. 1997年日本精神神経学会による性同一性障害に関する答申と提言。翌98年に埼玉医科大で公式に性別結合手術が行われる
4. 自殺予防対策に性同一性障害や同性愛を含む「性的マイノリティ」が支援と対象として位置づけられる

同性愛者・両性愛者へのアンケート

10代の男性1096人のうち

- いじめられたことがある……………44%
- 不登校になったことがある……………23%
- 自傷行為の経験がある……………18%

日高庸晴: 厚労省研究事業(2014年)

LGBT: 性的マイノリティと学校の課題

◎報告数606件
特別な配慮をしている学校は6割程度

- 思春期を迎え心身の変化に伴い様々な課題が生じた時の対応
- 卒業後の進路・就職へのつなぎ方(高校段階)
- 専門医の不在
- 保護者の理解を得ることが困難

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_ics_files/afieldfile/2016/06/02/1322368_01.pdf

学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査について
平成26年6月13日（文部科学省）

別対応はごく限られたものだった。また、相談者のうち、服装に関しては、女子 123 名は何らかの配慮を受けていたが、男子にスカート着用などを認めた例は 36 名の少数にとどまっている。さらに、生徒児童が性同一性障害であると把握しているのは、大半が学校側やごく一部の友人に限定され、カミングアウトして学校生活を送っている者は約 2 割の 136 名であった。

「学校が特別な配慮をしていない」とした回答のなかには、「児童生徒が学校への特別な配慮を希望しなかった」「児童生徒が学校による特別な配慮を断った」とする事例が多く含まれている。つまり「特別な配慮をしないことが、児童生徒に対する配慮」と捉えている学校も多く存在しているとも理解でき、学校がこれらの児童生徒にどのような配慮をすべきなのか、当事者の児童生徒が自然に過ごせる環境支援とは何かを考えさせられる。

前年度の調査を受け、平成 27 年 4 月 30 日「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について（文部科学省）」では、学校での支援体制について、「性同一性障害に係る児童生徒の支援は、最初に相談（入学等に当たって児童生徒の保護者からなされた相談を含む）を受けた者だけで抱え込むことなく、組織的に取り組むことが重要であり、学校内外に「サポートチーム」を作り、「支援委員会」（校内）やケース会議（校外）等を適時開催しながら対応を進めること。」「教職員等の間における情報共有に当たっては、児童生徒が自身の性同一性を可能な限り秘匿しておきたい場合があること等に留意しつつ、一方で、学校として効果的な対応を進めるためには、教職員等の間で情報共有しチームで対応することは欠かせないことから、当事者である児童生徒やその保護者に対し、情報を共

- ホルモン療法を勝手に始めてしまった事例を踏まえた、本人が正しい知識を学べる場の提供
- 周囲の生徒や職員の共通理解の醸成
- 施設面での配慮のための場所や設備の確保
- 専門機関や事例の不在
- 本人のみならず周囲の児童への配慮の方法
- 校内体制の構築
- 個別の事情によるため対応のマニュアル化の難しさ
- どこまで配慮すべきかの判断
（特に小学校段階において、どこまで踏み込んだ対応をとることが適当かの判断）
- 誰まで知らせるべきかの判断

性同一性障害者の抱える学校での問題

1. 就学・就労に関連した問題: 出席簿、制服、体育授業、履歴書、トイレ・更衣室の問題
2. 家族やパートナーの問題: 自分の子どもが本来の性別にふさわしくない服装や所作をする、社会からの疎外
3. 精神的問題、自殺: 社会的孤立や差別の結果、羞恥心や罪の意識を抱き、引きこもりや自殺へ駆り立てられる
4. 適応の困難: 手術やホルモン治療により体つきや服装を変えても自分の求める性別に完全に同一化できない

性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等(について: 支援事例 (文部科学省 H27年))	
服装	自認する性別の制服・衣服や体操着の着用を認める
髪型	標準より長い髪型を一定範囲で認める(戸籍上男性)
更衣室	保健室・多目的トイレ等の利用を認める
トイレ	職員トイレ・多目的トイレの利用を認める
呼称の工夫	校内文書(通知表を含む。)を児童生徒が希望する呼称で記す/自認する性別として名簿上扱う
授業	体育又は保健体育において別メニューを設定
水泳	上半身が隠れる水着の着用を認める(戸籍上男性) 補習として別日に実施、又はレポート提出で代替
運動部活動	自認する性別に係る活動への参加を認める
修学旅行等	1人部屋の使用を認める。入浴時間をずらす

有する意図を十分に説明・相談し理解を得つつ、対応を進めること。」と支援のあり方が示された。また、医療機関との連携のみならず、学校生活での各場面における支援として具体案が明示されている。

とはいえ、LGBTは主観的な症状と言われ、現在のところ性的違和感を測定する客観的な尺度・指標は存在せず、あくまで本人の訴えによるものである。そのため、性別についての違和感は本人に表現してもらえない（荘島 2015）。性別違和感の強弱の程度は個人により異なり、「自分の志向する性のトイレを使用したい」という者、「制服を着るのは我慢できるが、志向する性ではない更衣室での体育着の着替えはつらい」など多様である。

3 当事者を巡る対応

LGBTとされる者が性別違和感を持った時期について、半数以上は「物心ついた頃から」と回答し、中学生までとの回答は約9割を占めていた。特に、二次性徴が始まる小学高学年～中学生の頃には、性別違和感がさらに明確になるとされる。また、中学生では、二次性徴による身体の変化への焦燥感に制服や恋愛の問題が加わり、実際にLGBTがジェンダークリニックを受診するまでの経験として、自殺念慮、自傷・自殺未遂、不登校が高率であった（中塚 2010）。さらに、このような性別違和感が続くこと、いじめを受けることで、対人恐怖症などの不安障害やうつ病等の精神的合併症につながる例も少なくない。

当事者にとって性別違和は、身体に対する違和感や男女という社会通念上の区別における違和感を生じさせ「自分は変だ、おかしい」と感じさせることになる。さらに周囲の差別や偏見により「お前は変だ」と

児童・生徒からLGBT であるという相談を受けた

1. わかるう・理解しようとする努力
⇒ 傾聴の態度、LGBTに関する知識
2. いじめや差別
⇒ カミングアウト
3. 困っていることの確認
⇒ ニーズはなにか？



自分は間違っていないというメッセージ

- ・「保健体育」以外の科目でも「国語」「道徳」「家庭科」「音楽」「美術」などの時間で自然に取り入れる
- ・学校生活のなかで、LGBTについての肯定的な話題を提供する
- ・校内にセクシャルマイノリティ支援や啓発のためのポスターを掲示する
- ・保健室や図書室に関連図書を置く
- ・映画など画像の導入
- ・人権啓発ビデオ「あなたがあなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権」

<https://www.youtube.com/watch?v=G9DhghaAxlo>

相談窓口・情報収集・仲間づくり

<https://www.youtube.com/watch?v=soXomNWK7EE>

NHK「虹色」LGBT特設サイト
<http://www.nhk.or.jp/heart-net/lgbt/about/>
 LGBTの家族と友人を支える会
<http://lgbt-family.or.jp/>
 東京レインボープライド
<http://tokyorainbowpride.com/about>
 LGBT就活
<http://www.lgbtcareer.org/>

いう目にさらされる。さらには学校場面でトイレの使用や身体検査など生活上のハードルが当事者に「我慢」を強いることになる。それらのネガティブなメッセージは、彼らの自己効力感や自尊心の低下を招き、悩みの抱え込みという現象を引き起こす。その結果が不幸な結末に至るとも推測できる。

調査によると、LGBT当事者は、小学校高学年の頃には「性同一性障害という状態があること」を説明してもらいたかったと回答し、特にFTM（男性から女性へ）

当事者は、二次性徴の起こる前にホルモン療法の開始を希望していた（中塚 2015）。日本精神神経学会はガイドラインを改訂し、二次性徴が始まって性別違和感が増強した場合、必要であれば、二次性徴を一時的に抑制する治療を認めており、これにより学校生活を継続しやすくなることを期待している。

ところが、前述したように、子どもが学校で性の多様性について学ぶ機会は非常に少なく、正しい知識の欠如がLGBTの子どもたちに対する偏見が生じていることも多い。たとえば、日常的に気軽に用いられている「男の子らしく」「女の子らしい言葉遣いをしなさい」「結婚後、何人子どもが欲しい？」「男性は家族を養うのが当然」などの表現が当事者には非常に苦痛であることがある。これらの言葉がLGBTの子どもたちを傷つけていることを自覚できていない教員・児童生徒も多いだろう。このためにも、積極的に性教育や保健教育の中で「多様な性」多様な価値観、生き方について学ぶ機会の提供が望まれる。

仮に、性別違和感を持つ子どもから相談を受けた場合、①わかって・理解しようとする努力・傾聴の態度、②カミングアウトに伴ういじめや差別、③困っていることの確認、ニーズを知ることが重要になる。本人の望む身体像を認め、具体的にどのように対応すれば、彼らが悩みを抱きながらの学校生活を送ることを回避できるのかを考えながら、その思いに耳を傾けなければならない。教員自身がLGBTに偏見や誤った認知を有している場合、子どものニーズに応じた対応ができないだけでなく、他の子どもへの対応を誤ることがある。LGBTの知識が不足しているために子どもらに対応しきれないと思われる時には、共に学ぶという姿勢を持つことも、子どもに寄り添う姿勢として重要だろう。

この時には、学校風土を鑑みた上で、子どものニーズのどの部分を、どの程度認められるのか、互いに折り合いがつけられるポイントを探す必要がある。いずれにせよ、まず、相談してくれたことをねぎらい、時間をかけて信頼関係を構築しながら、校内での対応について検討するのは、日頃行われている教育相談と同様である。

この時には、当事者である子どもが「自分は間違っていない」と感じられるメッセージを送ることも重要である。子どもは自分への違和感や他者からの偏見、生活上での困り事などから、大きな不安を抱えている。しかし、異性愛が多数派を占めるだけで、性別には多様性があり、同性が好きでも、異性が好きでも「好き」という感情が大切であること、他者より良い関係を構築すること、すなわち対人関係や自分の意思を明確に伝えるコミ

法改正と性同一性障害

- 特例法(2008)により、戸籍上の性別変更をした人：2014年までに3,584名
⇒ ①20歳以上、②未婚、③未成人の子どもがいない、④生殖腺がないか、生殖腺機能を永続的に欠く状態である、⑤その他、性別に関わる部分に類似する外観を備えていること
- 性同一性障害により、性別の取扱いの変更をした者が結婚し(例:FtoM)、その女性が他の男性の精子の提供を受けて妊娠して生まれた子どもは、認知され嫡出子とされる。(2014年1月法務省通達)

25

コミュニケーションが人として重要であることを強調する必要があるだろう。

当事者への対応と共に重要なのが、保護者との関わりである。志向する性の制服着用を望む子どもに対して、否定的な保護者もいる。保護者は子どもが期待する性とは異なると声にした段階で、すでに大きな混乱の中にあるとされる（針間 平田 2014）（NPO 法人 LGBT の家族と友人をつなぐ会 2015）。子ども、保護者、教員の 3 者間の話し合いだけでなく、共に医療機関で説明を受けるなどの工夫も検討しなければならない。これにより、子どもも保護者も学校が共に問題に立ち向かってきているという気持ちを持つことができ、その後の相談や対応も円滑に行えるはずである。

さらに、教員は、他の子どもたちに LGBT について説明し、理解を得るという役割を担っている。健康診断、体育などの授業での対応、宿泊を伴う学校内行事等で配慮が求められる場合に、何をどう伝え、伝えたことで今後どのような問題や対応が求められるかを常に想定しなければならない。カミングアウトをした上で、他の子どもたちの理解を得たいと考える者、逆にカミングアウトはせずに配慮を求めるものなど当事者のニーズは多種多様である。前者の場合、まずは親しい友人から理解してもらうよう努め、クラスに広げるなど、誤解や偏見等が生じない工夫が求められる。後者の場合は、カミングアウトをしない、知られない工夫や説明などが求められる。

いずれの場合でも、日頃から学校や学級内で子どもたちが LGBT について高い意識を有し、啓発が進んでいれば配慮や対応について理解も得やすいであろう。例として社会科であれば、結婚と同性婚などの社会的状況について考える時間を設けるなど授業課目の一環として積極的に取り入れる方法がある。音楽、美術などの時間に、「この作品の作者は LGBT であることをカミングアウトしていました」などと工夫できる。理科では、両方の性を持つ生物や性染色体の説明に加えて伝えることも可能だろう。また、難しいと感じる場合には、資料やパンフレットを目に付く場所に置くなど、LGBT について受容的である姿勢が伝わるだけでも、カミングアウトが困難だと考える子どもたちも、自分に居場所があることを感じられるはずである。

4 おわりに

高校公民科で LGBT の 6 時間に及ぶ授業実践（瓦田 2016）では、授業を受ける生徒のなかに LGBT ではないか、と思われる生徒 A が含まれていたこと、授業をするが、逆に彼らへの差別に繋がらないかと不安に感じたことが述べられている。彼らの卒業後、瓦田は、A と話し合う機会があり、授業後、トイレのことなどで気遣ってくれる人が増えたこと、さらには、A 自身が周りに認めてもらうために、周りへの気遣いとして女装を始めたこと、自分がどうということより、自分のような人がいるのはみんなが嫌だろうという気持ちから自ら職員トイレの使用を申し出たことなどを聞かされた。また、A は、自分は綺麗になりたいだけでホルモン注射を受けており手術は検討していないこと、他の人と視点が違うことで、いろいろな人から相談され、まわりを客観的に見る力が育ったとも語ったという。瓦田自身は、A を生物学的女性と考えていたが、A 自身の口から、自分が男、女性と意識することもなく、カテゴリーに囚われるのは嫌だと聞かされ、LGBT というカテ

ゴリーに当てはめることそのものを憂慮するようになった。つまり、同じ LGBT でも、個々その考えや思い、置かれた状況は全く異なるという点では、「一人ひとり」と向き合うことが重要だと述べている。

そもそも、人はそれぞれ多様な個性を持つものである。近年、問題とされてきた発達障害もまた、ひとりひとりその特徴は異なり、その対応も画一的なものではない。発達障害や LGBT に限らず、教員は個性や違いを認め合うというメッセージを日頃から発信し、一人ひとりの多様性、多面性を尊重しながら関わるのが重要だと言えるのではないだろうか。

クルーザー

突然の暴風雨にみまわれたクルーザー（大型ヨット）が2艇、無人島に避難しました。1艇には若い女性とそのフィアンセ、もう1艇にはヨットマンと老人が乗っていました。日が暮れて暴風雨がおさまったころ、フィアンセが高熱にうなされ、意識不明に陥ってしまいました。

若い女性は、汗を拭いたり水を口に含ませたりするなど、いろいろと手を尽くしてみましたが、容態はまったくよくなりません。

夜はどんどん深まっていきます。クルーザーの操縦ができない彼女は、何とか彼を助けたい一心で、ヨットマンに医者のある島まですぐに連れて行ってくれるように頼みました。するとヨットマンは、「この島から医者のある島まではどうみても5時間かかる。それに夜の航海は危険で、命がけになる」としばらく考えていましたが、「あなたを今、抱かせてくれたらクルーザーを出しましょう」と言いました。

思いもよらない言葉に困り果てた彼女は、老人に「どうしたらいいでしょう」と相談したところ、「今のあなたにとって何がよいのか、何が悪いのかは私には言うことができません。自分の心に問いかけて自分で決めるのがいいでしょう」と言うのみでした。

彼女は悩み苦しんだ末に、ヨットマンの言うとおりにしました。

夜明けにヨットマンの操縦するクルーザーは、無事、医者のある島に着き、フィアンセは医者の手当を受けられました。

3日3晩、医者の懸命な看護により、フィアンセは目を覚ましました。若い女性はフィアンセを抱きしめながら、事の成り行きを話そうかどうか大いに迷いましたが、正直にすべてを打ち明けました。

それを聞いたフィアンセは怒り狂い、彼女に「なんていうことをするんだ！絶交だ！」と言い、彼女を部屋から追い出しました。

あまりのことに呆然とし、浜辺に座って波の彼方を見つめていると、医者がやってきて「どうしたの？」と聞きました。事情を話すと、「僕には君の気持ちが痛いほどわかるよ。彼には君のことをよく話してみよう。きっと彼も病気が治れば理解してくれると思う。それまでしばらくの間、私があなたの世話をあげよう」と言いながら、彼女の肩に手をかけました。

1. 「クルーザー」の物語に登場する5人の人物について順位づけをしてください。あなたが一番好感を持てる人物を1とし、以下順に2, 3・・・と、あなたの好意の度合いから順序をつけてください。その際、同じ順位はつけないでください。また、その理由を簡単に説明してください。

2. 次にグループとしての順位づけをしてください。特定の司会者は決めないで、全員が討論に自由に参加できるようにしてください。また、できるだけ全員の賛同が得られるような順位の決定をしてください。

	1	2	3	4	5	6	グループ	理由・その他
若い女性								
フィアンセ								
ヨットマン								
老人								
医者								

【参考・引用文献】

- 電通ダイバーシティ・ラボが「LGBT 調査 2015」を実施—LGBT 市場規模を約 5.9 兆円と算出— (2017 年 2 月 20 日現在)
<http://www.dentsu.co.jp/news/release/2015/0423-004032.html>
- 星野欣生 2003 「人間関係づくりトレーニング」 金子書房 p.21
- 針間克己・平田俊明編 2014 セクシャル・マイノリティへの心理的支援—同性愛、性同一性障害を理解する 岩崎学術出版社
- 日高康晴 教員 5979 人の LGBT 意識調査レポート (2017 年 2 月 20 日現在)
- <http://www.health-issue.jp/kyointyousa201511.pdf>
- 瓦田尚 2016 一人ひとりを尊重すること:多摩高校公民科での LGBT の授業実践とその後 部落解放 732 学校を変える被差別マイノリティの子どもたち Part3 pp119-128
- Buzz Feed 2016 「LGBT」が教科書に載る時代に 「それぐらい社会も変わってきた」2017 年度の高校「家庭」の教科書に初登場 (2017 年 2 月 20 日現在)
https://www.buzzfeed.com/kazukiwatanabe/textbook-for-high-school-mention-lgbt?utm_term=.oclNJRJnq#.lcM1XRXyd
- 中塚幹也 2010 学校保健における性同一性障害:学校と医療との連携 日本医事新報 4521 pp60~64
- 中塚幹也 2015 性的マイノリティと学校教育 教育と医学 63 (10) pp862-872
- 文部科学省 学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査について (2017 年 2 月 20 日現在)
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1322368_01.pdf
- NPO 法人 LGBT の家族と友人をつなぐ会—アンケート 2015 LGBT の子どもをもつ親が教職員に望むこと 女も男も(125) pp 58-60,
- 荘島幸子 2015 学校における性的マイノリティに対する支援 教育と医学 63(10) pp891-896
- 渡辺大輔 2016 性的マイノリティの子ども・若者の生きづらさと学校での相談・援助活動の現状と課題 生活指導研究 33 pp45-55